

# 制服・帽子 一新で団結

## 交通遺児支援むけ寄付も

【愛知】名備運輸（丸川靖彦社長、愛知県小牧市）は、創立50周年を迎えた2021年の締めくくりに、東海交通遺児を励ます会（吉野雅山会長）に対して記念の数字に合わせた50万円を寄付し、12月末に同会から感謝状が贈られた。

新型コロナウイルス禍となった周年事業は、時節柄、全体での式典を安全推進決起大会後の食事会にとどめるなど大々的に祝うことはできなかったが、大会を機に50周年のワンポイントロゴを施した制服や帽子に一新して団結を強める方向で取り組んだ。

丸川社長は「記念の21年は、引き続きコロナ禍に翻弄された一年だった。しかし、先行き不透明ながら、

この厳しさがなくなれば徐々に回復傾向も見えてくるはず。その中で、毎年交通遺児に10万円寄付していたところを、今回は少しでも多く役立てて欲しい思いで語呂の良い数字にしたので、少しでも会の運営に役立つことを願っている」と話す。

同社は、22年に向けて周年までに実現できなかった目標に対して具体的な行動指針を定めるとともに、今後はドローン（小型無人機）



東海交通遺児を励ます会からの感謝状を手にする丸川社長

パイロットの育成とそれに伴う新たな事業を形づくる準備などにも取り掛かっている。

「世の中はコロナ禍で暗い雰囲気があるが、少しでも新しいこと、楽しいことにチャレンジしていく姿勢が大切。変化の大きい物流業界で、何か動きがあればすぐに対応できる体制を整え、次の100周年に向けて次世代の足掛かりとなる事業を築いていく」

（梅本誠治）